

三つの「助」大切なのは何か

北杜市立甲陵中学校一年 やまき 八巻 なほ 奈緒

令和2年7月豪雨の発災から、まもなく

1か月となります。一連の豪雨は、九

州、中部、東北地方をはじめ、広範な地

域において、多くの人命や家屋のほか、

ライフライン、地域の産業等にも甚大な

被害をもたらしました。

これは、令和2年七月三十日に首相官邸ホ

ムページで発表された文章です。文中にあ

るように、この災害は大きな被害をもたらし、

多くの人が心に傷を負いました。その中には

土砂災害によるものもあり、メデイアにより

連日大きく報道されました。

東北では、最上川の氾濫が大きな話題を呼

びました。最上川は日本三大急流の一つに数

えられており、もしも氾濫したら大きな被害

を及ぼすことが考えられます。しかし、朝日

新聞には

山形県の最上川などか氾濫（はんらん）

した7月未の豪雨で、同県内では住宅約700棟が浸水被害を受けただけでなく、人家を巻き込む大規模な土砂災害が起きなかつたことに加え、行政と住民の素早い避難行動が奏功した。と掲載されています。全国各地では多数が犠牲になる災害が相次ぎました。最上川流域でのような結果になつたのはなぜでしょう。か。

その答えは「安定したコミュニケーションが、あつたからでしょう。一人一人の意識が高かつたからでしょう。専門家もこの点について高く評価しています。このことを表面から判断すると、自助・共助・公助の中では自助と共助がもっとも強くはたらいいたように見えます。実は公助も同じくらい作用していました。自助は自分で自分の身を守ることで、災害が起こつたとき、自分はどうしたらいいのか、というも、とも身近な災害対策といえるでしょう。共助は互いに助け合うことも意味

れます。私は、共助は災害が起こったときに
どうするかという実践的な側面が大きいので
はないかと考えています。公助は国や都道府
県等の機関による支援を指します。あまり普
段から意識するものではないかもしれませんが、これ
も災害時やその備えにおいて重要になってき
ます。

この三つの「助」はどれも欠けていてもい
けません。その理由を土砂災害を例に考えて
みましょう。

避難経路を確認したり、大雨や土砂災害の
情報を確認したりしておかざれば、自分の
命は助かりません。これらの情報を発信する
ことは個人ではなかなかできません。また、
みんなで助かるために逃げるときは近所どう
しでの声かけも必要です。さらに、避難した
後の生活は決して一人では乗り越えることの
できないものがあります。地域で助けあわなければ
いきません。また、災害が起こったらどうす
るのかは下はなく、起こさない、被害を最小に

抑えるためにどうするかを考えることも大切
です。

この例では自助・共助・公助が複雑に絡み
合っているため、どれか一つでも抜いたら途
端にバランスが崩れ、被害が大きくなっていし
まう下しより。そんな事態にさせないために、
日頃からの意識を高め、おかなければいけま
せん。

では実際にどのようなことを行えば良いの
下しよりか。

いちばん大切なのは、現状を知っておくこ
とです。自分の住んでいる地域は土砂災害警
戒区域に指定されているのか、避難所に逃げ
るのと家の中で安全な場所に移動する垂直避
難のどちらがより安全か、こういっただけを
確認しなければいざというときに間違っただ行
動をとってしまう可能性があります。また、
「備えあれば憂いなし」ということわか
るように、非常食やハザードマップなどの用
意をしておくこと安心です。

三つ「助」はどれも必要不可欠ですが、それらの基盤にはいつでも自助があります。自助で命を守って、その共助であり、災害に関する知識があつてはじめて公助を活かしきるここができません。まずは自分のできる範囲から土砂災害について知り、考えることがいざというとき、将来の自分を助けられる下しよう。

引用元

..首相官邸ホームページ
被災者の生活と生業（なりわい）の再建に
向けて

(<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/oaame202007/index.html>)

..朝日新聞デジタル

八月十日の記事

(https://www.asahi.com/articles/ASN877R6ZNG7UZH8006.html?ref=pc_ss_date)